

府中地区

(広島県府中市)

- 計画期間 H16年～20年
- 面積 85.5ha
- 交付対象事業費 4,321百万円
- 市人口 45,200人 (地区内人口 7,000人)

ポイント 魅力ある中心市街地を創出し、歴史的資源を活かした賑わいの再生

地区概要 中心市街地の賑わいの再生を図るための核となる施設整備を行い、これによる回遊性の増加に対応するため、相互に活用できるネットワークの構築を図る。

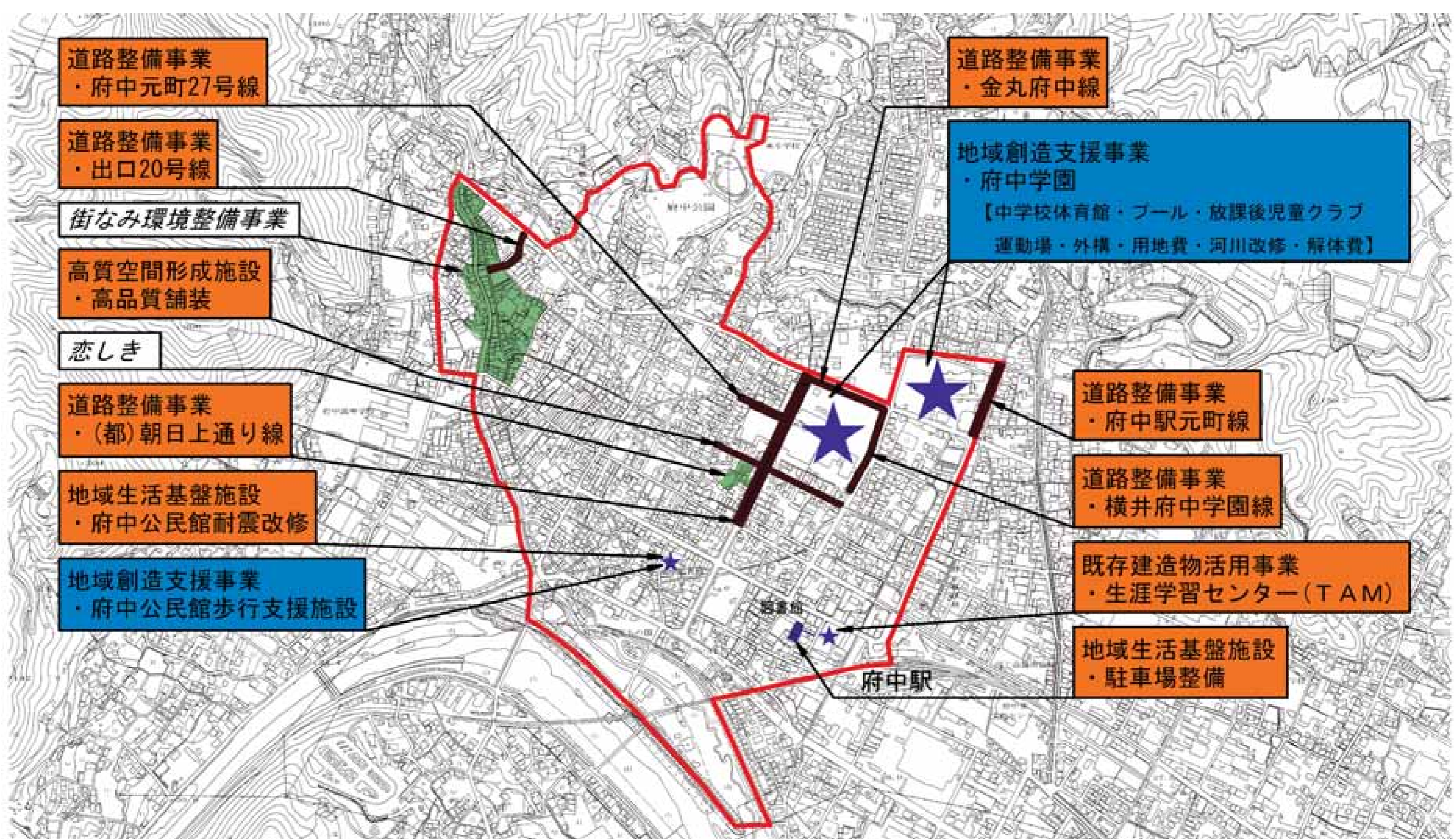
目標 地域交流センター、府中学園、幹線道路の整備などによって中心市街地の賑わいを再生させるとともに、地域の防災性・安全性の向上を図る。また、歴史的資源等を活用し誇りと愛着のもてるまちづくりを演出する。

指標 中心市街地の賑わいの再生、地域の防災性・安全性の向上、安心して歩ける歩行者空間の確保、歴史的資源を活用した魅力の向上を目標とした。

項目	現況値	(年)→	見込み値	(年)
通りの歩行者数	1,700人/日	(H16)→	3,000人/日	(H20)
イベントの開催数	35回/年	(H16)→	50回/年	(H20)
消防活動困難地域の解消	1.4ha	(H16)→	0ha	(H20)
安心して歩ける歩道の整備	160m	(H16)→	1,200m	(H20)
回遊性の増加	1.25箇所/人	(H16)→	2.5箇所/人	(H20)
街路樹延長の向上	250m	(H16)→	1,200m	(H20)

事業内容 基幹事業(2,565百万円) → 道路(幅員4.5～21m・延長1,110m)、地域生活基盤施設(駐車場500㎡・20台、府中公民館耐震改修・630㎡)、高品質舗装(1箇所・1,200㎡)、既存建造物活用(1箇所・2,660㎡)

提案事業(1,756百万円) → 府中学園(1箇所・49,000㎡)、歩行支援施設(エレベーター・1基)



地区の現況と課題

府中地区は本市の中心市街地であり、古くから家具やみそなどの特産物の生産に加え、機械金属工業や繊維等の集積も顕著であり、備後地域内陸部の製造業の都市として発展してきた。しかし、近年地区外への転居者や高齢化率が増加し、大型ショッピングセンター、郊外型大型店舗の新設等により既存商店街の店舗数が最盛期に比べ半減するなど、中心市街地の賑わいの再生が喫緊の課題となっている。



市街地全景

提案事業の特徴

府中学園整備事業

中心市街地に存する大規模工場跡地に統合小中学校を整備することは、人が集まりまちに活気があふれるなど本地区の目標である「中心市街地の賑わいの再生」に資する効果は非常に大きく、空洞化の進む市街地にとって、まちづくりを進めるうえで必要不可欠な整備事業である。

府中公民館歩行支援施設整備事業

中心市街地内に位置する府中公民館は、地域住民の学習の場や活動の場、交流の場としての機能を持っており、さらには、地域の避難場所にも指定されている。今後とも中心市街地における賑わいの場や地域防災拠点としての機能を維持し、利用者の利便性の向上を図るためエレベータの設置を行う。

計画策定プロセス

地域との連携ワークショップ

産業界や商業者を対象にワークショップを行い、まちづくりの現状や課題の共有を図った。また、府中市の将来のまちづくりについて都市計画審議会に諮問し答申を受けて、①ものづくりのまちとしての再生と発展②暮らしやすいまちへの改造③都市文化の継承と育成の3つの目標を設定し、都市計画マスタープランに位置付けている。

府中市長伊藤吉和氏のコメント

平成19年5月、本市は内閣総理大臣より「中心市街地活性化基本計画」の認定をいただきました。これを受け、生活機能が集積した「コンパクトシティ」づくりによって、人口流出や大型店の郊外化によるまちの衰退を食い止め、賑わいある中心市街地を取り戻すための土台づくりができました。吉川英治や井伏鱒二など、多くの文人や著名人も宿泊した老舗割烹旅館「恋しき」は、平成19年11月のリニューアルオープン後から多数の人々が来場し、往時の賑わいが甦りました。

本市は、小中一貫教育を市内全域で実施しています。平成20年4月には、4小学校と1中学校を統合した府中学園も開校しました。一体型の校舎は、小学校はオープンスペース型、中学校は教科教室型の運営方式を取り入れています。この学園の開校により、本市の小中一貫教育に、より一層の教育効果がもたらされることが期待されます。

【提案事業】



平成20年4月開校

府中学園

(4小学校、1中学校を統合し小中一貫教育を実施)